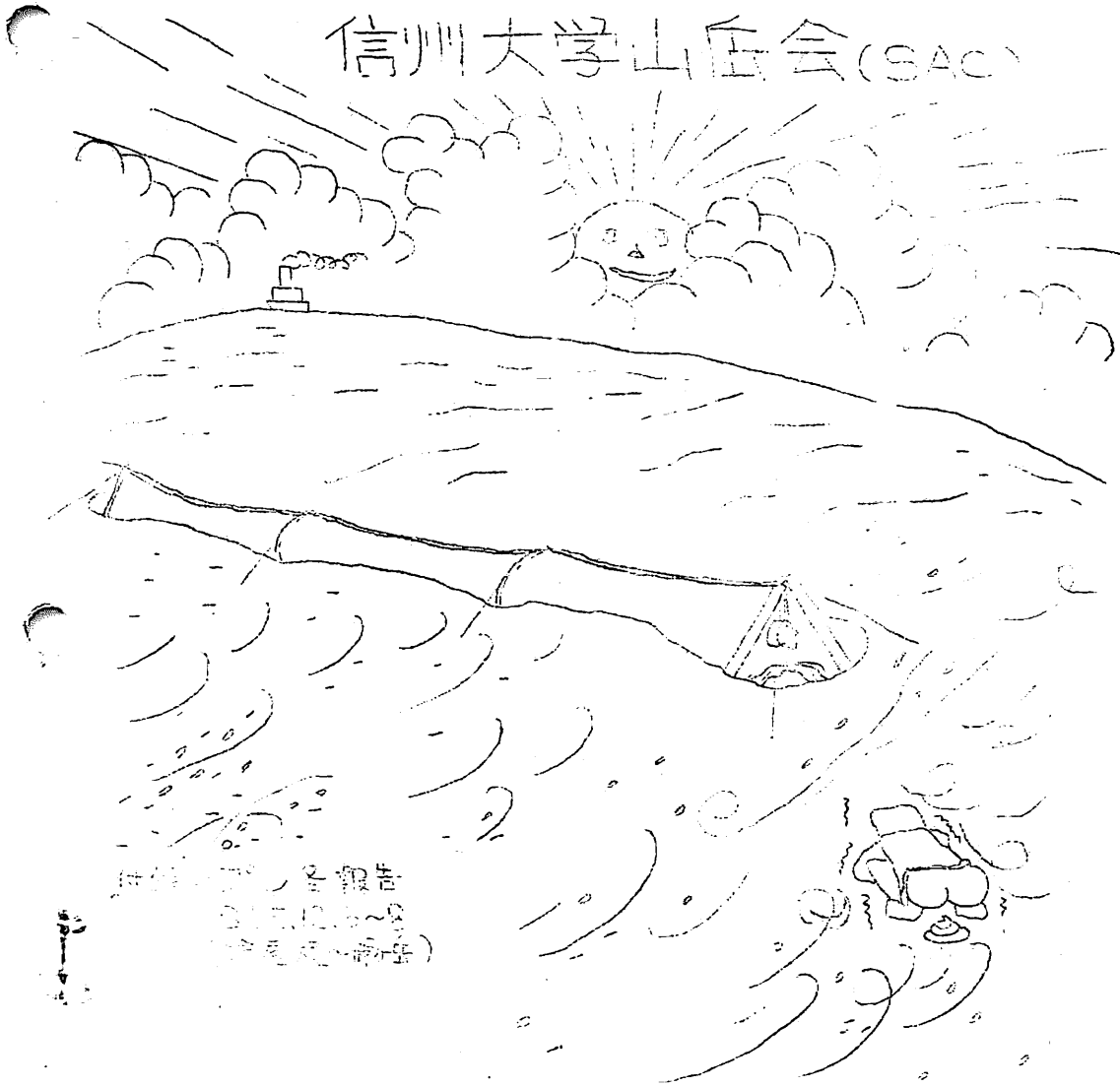


55年度



北アルプス 毛勝山塊

信州大学山岳会(SAC)



信州大学山岳会報告
55年度(1974年度)
(55年度)

◎ 期間

昭和55年12月1日 ~ 12月31日

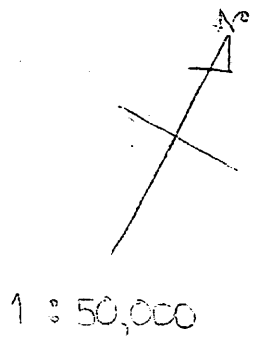
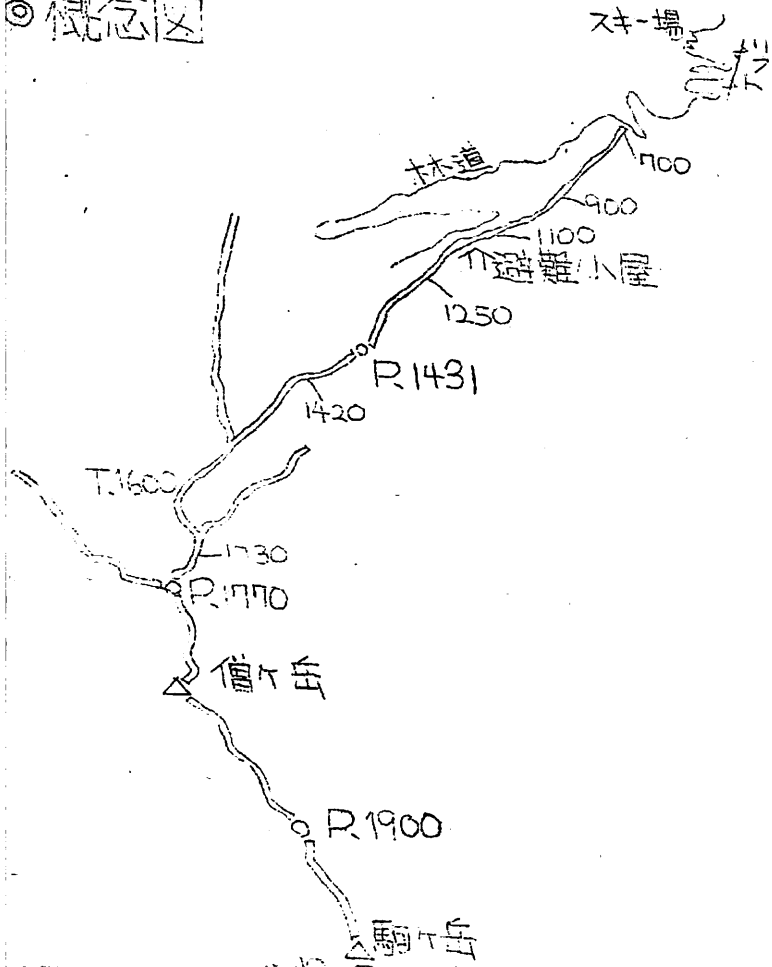
◎ コース

北平ルポス尾崎山麓
宇野尾根 ~ 僧ヶ岳 ~ 霧雪のため懸ヶ岳手前
のR1900より左路を下山 (計画では、毛鷲山
まで縦走し、西尾根を下山)

◎ Member

C.L. 加藤 壽章 (V)
S.L. 山本 雄次 (IV)
川原 修 (III) 保野 実 (II) 岩村 孝之 (II)
藤井 喜之 (II) 田辺 治 (II) 丸山 岳人 (II)
野村 三 (II) 田辺 潔 (II) 茂呂 晃 (II)
福川 和幸 (I) 沢田 克彦 (I)
Observer. 竹ノ内 孝実 (V)

◎ 概念図



◎行動表

| 日 | 松本 | 700 | 900 | 1100 | 1250 | 1300 | 1300 | 1300 | 1300 | 1300 |
|-----|-----|-------|------|-------|-------|-------|------|------|--------|------|
| 21日 | ←D. | | | | | | | | | |
| 22日 | | RD. → | D. → | RD. → | D. → | RD. → | | | | |
| 23日 | | | | | RD. → | D. → | | | | |
| 24日 | | | | | | | S. ← | D. → | | |
| 25日 | | | | | | | | | R.D. → | |
| 26日 | | | | | | | | | | |
| 27日 | | | | | | | | | | |
| 28日 | | | | | | | | | | |
| 29日 | | | | | | | | | | |
| 30日 | | | | | | | | | | |
| 31日 | | | | | | | | | | |

お正月

○記号の説明

- D: 干渉
- F: 圧入
- P: ピーク
- ☉: 静置
- R.D.: 干渉回収
- S: サポート
- T: 台地

◎行動記録

○12月21日 ◎一時⑧

△先登隊

中野原 → スキー場へ向う林道のかき(設置)

スキー場の雪が積もる15cm程度。駅から10分歩いた林道のかきに
到着。後、スキー場へ向う。

△先登隊 上田 全員

T.S. → リフト終了点 (560m) (Depo)

T.S.で使用する以外の物を荷上げ。スキー場は雪の厚さを
踏まてのラッセルで進む。積雪はスキー場上部で1m。積雪。
(感想) スキー客がたんといて、暇かこのまじ、うじや
まじいやら。早く下山して帰省しようか。(岩)

○12月22日 ◎時々①

△先登隊

上田 加藤 三原 保科 志村 田原 野 堀川

T.S. → Depo 終点 → 積雪小屋 → 1250m (Depo)

Depo 終点までは積雪のラッセルを使って登る。ここで15分程度
の休憩をとり。この日は積雪ラッセルで、最初林道を行き、林
道の積雪の厚さを確かめる所から積雪小屋に登り始める。

積雪小屋には、いたる所が積雪あり。ラッセルは雪から踏んで、
積雪の厚さを確かめる。積雪であることも重なって、思う様に
進まない。当然スキーははくがれにくく、Zは滑る。
(感想) 小屋の外からは、白馬北谷積雪とお母さんがとても
きれいです。またこの積雪の厚さを確かめるのとお母さんと
積雪の厚さを、日本海へ帰るまできれいです。(岩)

△後登隊 上田 藤井 田原 志村 村上 中野原

T.S. → リフト終了点 → 700m → 900m → 1100m → 小屋

林道より尾根に少し上が、たけ山(700m)でも後登隊で進む。
Depo回収に向う。その後も2回Depoをする。

(感想) ダブルボツカに行、たり来たりは苦しか。た。
(沢田)

○12月23日 ○→◎→④

▽先登隊 (山本、竹)内、丸山、田畑、藤田、藤井、沢田
避難小屋 → T.1600m → 備ヶ岳直下 1820m (2m)
7:30 14:40 13:30

ア、上。は雪崩のみ、下ははみみのカミ。往時同様、雪崩の回避
の対策はみかむか難事の上なる。ア、上。はみみのカミで、
雪は昨日よりし、おぼろ、下。には雪が厚い。1600m
より上(薪が無く、下、上。に上り難くなり、上登隊は
は避難小屋、下。のみなる。
上登隊の本で、下。に足りない。

▽後登隊 (加藤、川原、田畑、藤、保科、若村、細川
避難小屋 → 1250m → 1420m → T.1600m
8:00 9:40 9:50 13:40 13:10

1420m の下。の回収の質から悪天のきせしが現れる。
(感想) 後登隊は、上。セルの分荷が重い。どちらが楽か
よく考えてみよう。しかし今日は、上。のみならず、
(進行)

○12月24日 吹雪

▽先登隊 (加藤、竹)内、丸山、藤井、田畑、若村、沢田
T.S. 1775m → 備ヶ岳頂上直下
7:10 9:50 9:50 11:10

15%程度の田畑を持。て出発。昨日のトレースは無く、新雪
のトレース。(藤が3段) 視界は悪く、雪もちらついているが、
風は弱く、P.1775m 近くから風が強くなる。赤旗を頼りに登る
が、視界がさらに悪くなり、(20m 程度)ルート・コイニヤニ
に苦勞する。トレースも5分程でなくなるため、1770m 付近
にキスリングをDepoし、後登隊のサポートへ向う。
1730m 付近で後登隊と荷分けをし、1770m からは後登隊が先
行する。積雪は広く緩やかで、迷いやすい所だ。

▽後登隊 (山本、川原、保科、若村、田畑、藤、細川
先登隊のトレースは不明瞭で、上。セルを強いられる。赤旗
はよい目印となった。昨日デポした備ヶ岳直下1820mのコーラに
設置する。
T.S. → 備ヶ岳直下
8:00 11:00

○ 12月25日 ① 一②時々①

△先遣隊 山本、川原、藤、栗田、田辺、保科、細川、
 T.S. → P.1900m → 駒ヶ岳 (Depo. 取)
 5:10 10:30 13:30 12:30

1900mの地点まで行くDepoを回収。P.1900(本日のT.S.)へは2Pichで登る。ここから駒ヶ岳へDepoに行く。P.1900mを下るとき、所々雪道の登道している箇所があり、また、視界もきかないので、注意が必要である。

途中、1920m地点で30mのfixをする。駒ヶ岳への登りは、クラストしている所とふきだまりが交互に出てくる。デポは頂上から少し下、た所(1980m)



△後遣隊 加藤、竹ノ内、丸山、田梨、岩村、藤井、沢田
 T.S. → P.1900m → 駒ヶ岳 (Depo)
 10:00 12:15 11:15 13:00 14:00

ポイントの掘り出しに手際取り、撒収には3時間を費やす。先遣隊のクラストはたいだいで残っている。1Pichと2分でT.S.のP.1900mに到着。適時にデポ回収。天気も晴れ間が時々見られるようになり、さびた先へデポした行く。結局先遣隊のデポと同じ地点まで達し、下降路も確認する。(藤井) 毛勝は近く見えるが、なんとまでかい。(藤井)

○ 12月26日 吹雪 地殿

午前4時頃かじ雪かき。2つの穴を縫に並べているせいか、積雪天はオク雪の塊状、とします。

○ 12月27日 吹雪 地殿

焚火を移動。食糧は明日で終わりなので、食いのぼしをあげる。(総計は昨日の分のEssenがDepoしてある。)

○ 12月28日 吹雪 地殿 この地点までの予備日(4日の配分)をすべて消化。明日からの行動はDepo回収と下山。

○ 12月29日 吹雪 地殿

14:00から、Depo回収に出発する準備するが、吹雪がひどく、とりやめ。

○12月30日 吹雪 池殿

▽(駒ヶ岳の)デポ回収隊

上川藤、山本、川原、藤井、岩村、茂呂、丸山

(山本、川原は、不調のため途中でひき返す。)

15:15出発。風は弱くなり、視界も若干回復している。しかし、雪に埋まったDepoを見出す事ができず、T.S.へひき返す。1920mの積を通過する頃から入、ドランプをつけての行動となる。帰天17:30。

気象庁の予報によると、冬型の気圧配置がゆるみ下界では大雪の時は救したが、大陸には次の寒気団がひかえているとの事。明日は駒ヶ岳のデポをあきらめ、往路を下山する事に決定する。

○12月31日

◎ 全員

▽上川藤

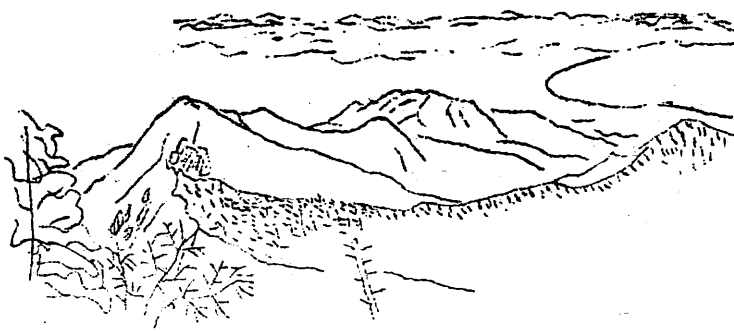
T.S. → 駒ヶ岳 → 遊樂小屋 → 宇奈月温泉
9:30 10:30 12:30 15:30

吹雪がや、とおせまり、一週間がりの晴天となる。テントと2日分のEssen, Essen具、その他必要なもののみを持つ。駒ヶ岳への稜線は、雪庇が発達している。上部の雪は締っているが、鞍部は積までのラッセル。駒ヶ岳からは傾斜に下る。遊樂小屋下の林道へ出る所で、トップガイド20m。切取部の林道は傾斜の強いトラバースで、杖を10cm張る。スキー場上部の林道へ降り止ら、や、と安全地帯。(14:30) また、山本は坂方における足の痛みのため、スキー場からはリフトで下り、駅までスノーボードで遊び。

本日の宿は、去年と同じ、糸魚川の駅です。

(感想)

昨日の悲愴な心境がうそのようない日だった。糸魚川の契茶店で紅白歌合戦を見て、不界生活の喜びを感じた。新年を仰えた瞬間の地元若い衆による干っきもよか、たです。(田淵)



雪山が
そこにあるから
池殿し

予備日(Escape)「予備日が足りなかったのでは」という意見もあった。予備日を多くとれば、それだけ成功率が高くなるというものではなく、装備(ESSEN)の重量が尤も大きく増え、山行日数が長くなれば、部員の志気の低下など不測の事態が起こる可能性も高くなる。今回の合宿の場合では、定動12日予備1日だったが、これが行程を消化できなければ、安全に下山できるEscapeをとるのが良い計画ではないだろうか。Escapeとしては、できるかぎり安全なものも少なくとも各予備日くぎりに一本はとりたい。その点で今回のEscapeは、不備だったろう。幸いにして最も安全な宇奈月尾根をEscapeにすることができたが、駒ヶ岳をこえても勝までの黒部側の尾根は、地図だけから判断しただけに不安が残っていた。計画面での重大な反省点だろう。

ESSEN(装備) ESSENの乾燥野菜など、すぐに用意できない物もあり、事前にしっかり計画し早い時期から準備を進めていくべきだった。又、荷物に占めるESSENの割合も高く、事前に総重量を推定し、積極的に軽量化をはかることも大切だろう。装備では、つし冬冬山を通じて忘れ物、なくし物が多かった。自分が何をもっているかの予備は山行において最も基本的なことであり、物によれば生命にかかわる事態にもなりかねない。団体行動では一人のミスが全体にひびくものであり、各個人が責任の分担を自覚し、チェックしなければならぬ。

計画(内容) 計画としては、完成できていたら相当に評価できるものであろうし、内容的にも不完全なものではなかっただろう。前述したようにEscapeを除けば、反省すべき点は実行に移す段階にあったのではないだろうか。天候判断しかり、Depoの失敗しかりである。

内容とは別に計画決定が遅くなったことは、反省すべき事柄だろう。早目に考えはじめれば、十分に内容を検討できるし、決定も早くなる。そうすれば、準備も早くから始められ、より充実した計画になるというものだ。遅くとも10月中には決定したい。それには9月頃から検討し始めるべきだろう。

以上、各項目について冬山を総括してみた。反省すべき点は他にも多々あるだろうが、「良い経験になった」、「得るものが多かった」というのが大多数の卒直な感想だろう。そして、この経験反省を基準に今後の計画を立てていけば、やはり安全な山行ができるのではないだろうか。

S56.1.17、総会より(川原)

◎〈備の反省〉

○装束

- 1) ES袋、装備袋 各袋が多すぎて、内容物がよくわからなかった。各人に何がどの袋に入っているか徹底させるが、袋をへらすべきだった。
- 2) 竹ポールは最低30本必要であった。
- 3) テントのメインポールの予備の問題を、合宿と言う長期山行ということを考え、今後一度考えるべきである。
- 4) 除雪にプラスチック食器を使用した場合、予備が更に必要。(今回はプラスチック予備を28枚に対し4枚であった。) または、金属のものを見直さねばならない。
- 5) 雪ブラシはヒモをつけておかねばならない。

また行動日に使用した燃料その他は以下の通り。

ガソリン 150~160cc / 人・日

ローソク 半本 / 日・天

メタ 20本 / 日

(フジイ)

○ESSEN

パミカンの味はよかったが、水分を充分にとばしきっていらなかったのど少し重かったようである。乾燥野菜をもう少し取り入れて軽量化をはかるべきだったかもしれない。
予備日のダン箱の重さをもう少し考えてパッキングするべきだった。
全体的にみれば味は良かったが少々重かったと思う。

○会計簿外

(保料)

会計報告

○収入

山行費

21000x11 = 294000

OBカンパ

6500

伊那部費

13000

松本 "

5000

フシ冬繰り越し

1500

計 320000

○支出

ESSEN費

154954

装備費

52852

交通費

52080

その他
返却

4839
 $2000 \times 14 = 28000$
計 297725

残高

22275

残金は、伊那松本の部費に入れた。一人当りのESSEN費は、550円/人ほどになった。ダン箱1個7600円となる。装備費の大部分は、メタ10箱などの12000円、シュリンゲ300mなどの35000円である。交通費は、松本⇄魚津(1700×0.8=1360円/人)と、魚津⇄宇奈月温泉(500円/人)であった。上野村警察への計画書提出は、富山県警察本部だけであったが、宇奈月の派出所用にも一部もって行くべきだった。(入山口というニ(丸山))

○医療

余分な医療カンを持っていった以外は特に問題なかったと思う。ビタミン剤(ポポンス)は、これなりによかったのではないかな。(セウ)

○記録

沈黙日には、随筆や川柳などを書いてみましょう。(田淵)

○気象

地域的にドカ雪の降る場所であるので、計画書にはその由を書いておいたが、みごとになんか当たった。天気図はみなよく書けていたが、細かい天気の変化を予想するためには、もっと知識が必要であると感じた。また高層気象も練習しておくのもよい。(モロ)

◎〈個人の反省〉

加藤: 隊全体にかかわる判断の甘さを反省。今年の経験を基準に今後の計画を立ててゆけばかなり安全な山行ができるのではないかな。

山本: Depoについては、あの時点であの状態ではあつたのが普通ではないかな。沈黙中は、いつでも出発できる体制、心がまえを持つ必要がある。急には行動できない。ズクを出さう。うまい除雪のやり方を考えなくてはならない。

計画はまっとうできなかつたがよい経験になつた。

川原： 今回の合宿は結果的に惨敗に終つた。しかしこの計画を
無謀なものとは言いたくない。たしかに予備日の見積り
、Depoの手順等甘い点が多々あつたが、計画自体は恥か
しくないものだと思ふ。又、豪雪などの気象条件もひど
いとは言われながら、充分予想し、対処しようものだつ
たろう。それよりもむしろ敗因は、それを更に行うべ
部員の内にあつたのではないか。しかしこれを反省し、下
書き点をさし引いても悪天にじつくりと待たせ、運送は本
山した行動は正しいものだらう。冬山はここの合宿は本
点で、冬山はここの合宿は本点で、冬山はここの合宿は本
して、冬山はここの合宿は本点で、冬山はここの合宿は本
た。今年はずいぶん寒いところへ行こうネ。

岩村： 生活技術の細かい点、健康管理の点、これからだと思う
。問題はあつたが、特にデポの問題はこれからの冬山
において、いい経験と思ふ。天候については何も言えな
いが、それが最悪とは思われない。けっこう充実してい
たと思ふ。

関： 今回入山した山域は厳しい気象条件であることは、ほつ
かりとわかつていたのにもかかわらず、計画においても
まだ甘かつた様子がする。また入山してから予定外の
の行動は十分に慎重にならねばならないこと痛感した。
個人としては、まだ寒さにめげないし、気象に閉ざる
知識も不足していた点を反省せねばならぬ。計画は成
しとげられなかつたがよい経験になつたと思ふ。

藤井： 今回の山行は計画段階に於てはミスが多かつたように思
われる。たゞし悪天の荒天に見舞われた場合でも安心し
て天候の回復を待つだけの注意深さが必要であらう。

田辺： 今度の冬山合宿は、冬山の真の姿をつくづくと思ひし
らされた。今までたいした吹雪は経験したことがなかつ
たので、大雪の中での現況に関しては、1年部員とあま
りかわりがなかつた。初めこの計画を見た時には、ず
いぶん余裕のある計画だと思つていたが、実際はそれ
も足りなかつた。これからの山行ではさらに慎重に計画

を立てなくてはならないことを痛感した。12月25日に食料燃料の大部分を駒ヶ岳にデポしてしまっただのが最大のミスであったが、冬山では先の読みをうまくめらないうけないことが身にしみた。食いのばしは初めての経験だったが、そのようりょうはよくわかった。特にホエブスのガソリンを長もちさせることについては。山に行く以前の問題であるが、電車の乗り替えの時のすれをしないように。

保科：体力的には最終日まで快調にいった。ラッセルも技術的に苦しむことはなかった。ともかく今回の山行は実に良い経験になったと思う。

茂呂：Depoの場所がよくなかった。予備日が不足ではなくて、あれで行けなければ、安全にありれるEscapeをとるのが、良い計画だろう。

田淵：fix工作などで技術的な面がためせなかったのが残念。凍傷予防など、健康管理がずさんであった。

丸山：得るものが多かった。冬山の的確な判断ができるようになりたい。

細川：テント内での整理が悪かったためか、細かい個装をなくしてしまった。またエッセン当の時ほど、もっと細かいことにまで気を配ればよかった。体力面では重荷をかついた時にあまり余裕がなかった。

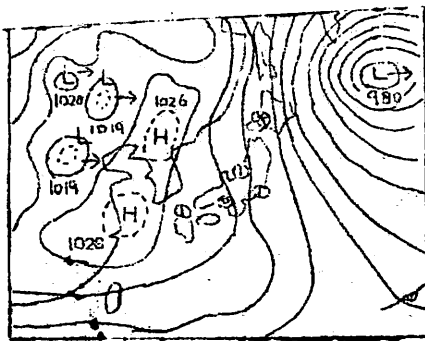
澤田：今回の山行は行動が気象条件にかなり左右された。この時期の冬山では、4~5日の沈殿は当然と考えるべきだろう。行動中は、正確なルートファインディング(今回は方向を見失いやすい様なだだ広い場所がかなりあった。)と、尾根では雪庇に注意することが必要。又天気図と気象判断に習熟していかなくてはならない。生活技術では装備をいかにして濡らさないか(僕はシュラフを濡らしてしまった)、炊事は、燃料の節約に心がける。装備では竹ペグの予備が少なかった。メインポールも折れる事があるのでも予備が必要である筈が、持してこられなかった。そして体力のある事が最も大事だ。沈殿でも体力は消耗してゆく事が判った。

◎合宿中の天気

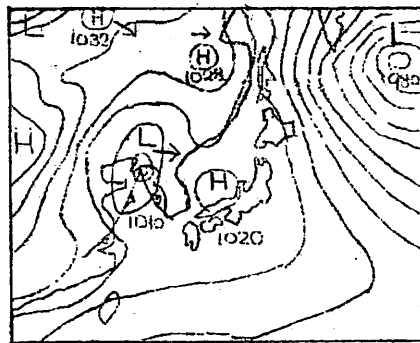
22日に華海どしが発生し、23日に通過した。25日の天気図で、大陸の高気圧が非常に強まっていることから、寒気の存在を予想がさる。なお、23日、25日の好天は、日本海のしによる疑似好天と思われる。事案、その日はタネから天気がくずれた。25日は典型的だ。24日の天気図で翌日のデポ量判断をすると、悪天があのようになるとは思われぬ。25日では、前述したように、予想がさる。

26~30日までは寒波の来襲で冬型が完全に定着し、毎日同じ天気だった。地上天気図から、寒気を知るには、富士山の気温がよい。-30℃ぐらいたら第一級の寒波だ。大陸の寒気を予想するには、長春やハバロフスクの気温が参考になる。また、寒気があれば、大陸のHが強まり、Hが弱まるとは、もうそろそろあれる。29日の天気図で、Hが弱まったことは、もうそろそろ二の冬型も終わるのではないかと考えられる。

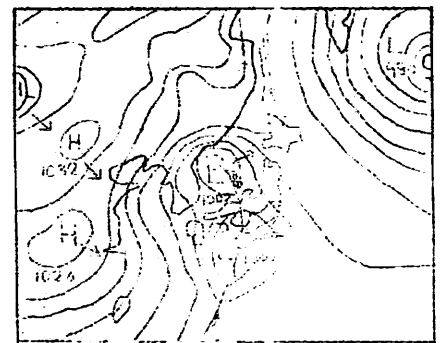
高層天気図では、上空の状態が直接わかるため、利用価値が大



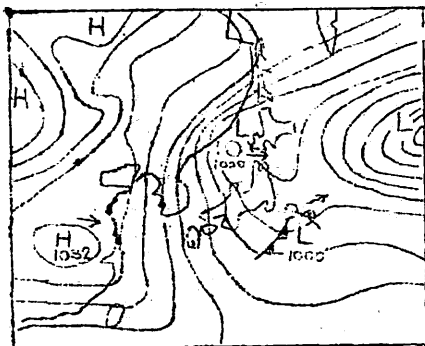
12月21日
15時
17時 下. S. 12. 0°C.



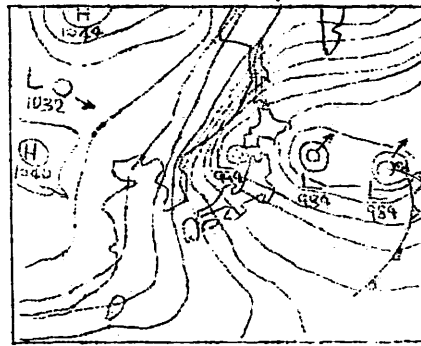
12月22日
15時
3時 -2.5°C, 12時半 1.5°C.
(6000ft 停止)



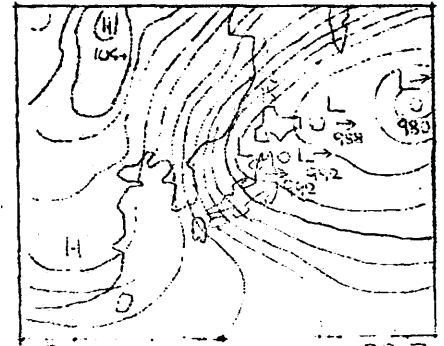
12月28日
15時
7時 -6°C, 11時 -2.5°C.



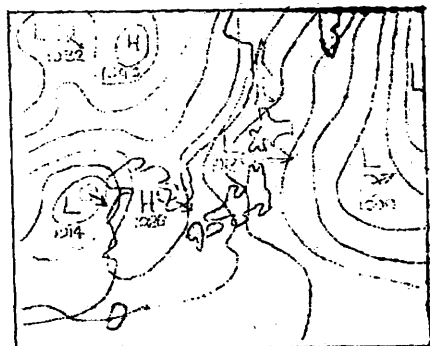
12月26日
15時



12月27日
15時

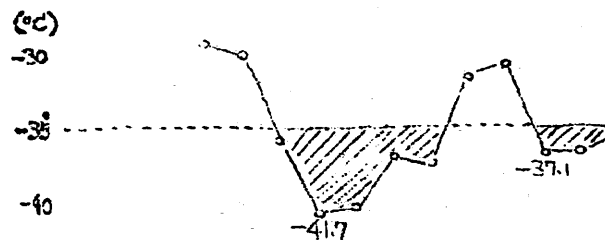


12月28日
15時



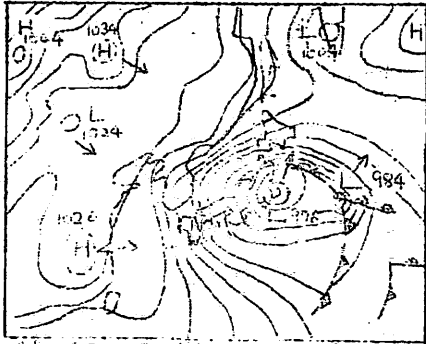
12月31日
15時
9時半 元場にて -12.5°C.

《騎島上空5500mlの気温の変化》

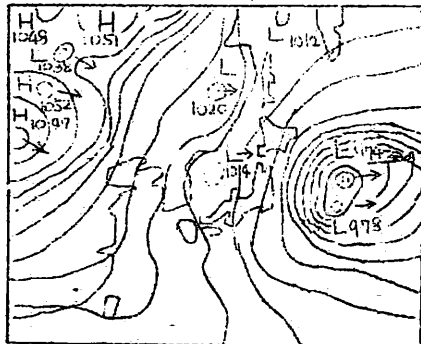


富山の天気
21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 1/2 3 (日)

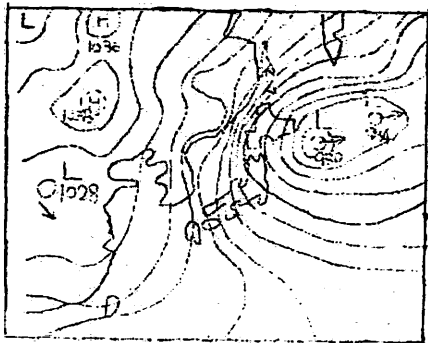
マイナス35度より下がると大雪が降りやすくなる。



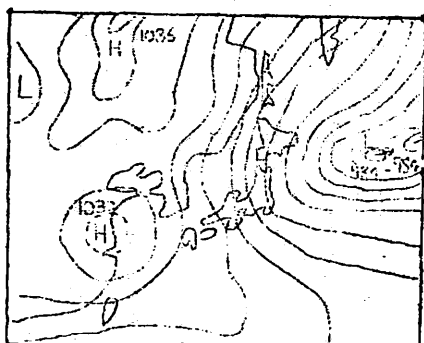
輪島上空 24日
 12時
 11時 -7.5℃



北陸寺前 25日
 12時

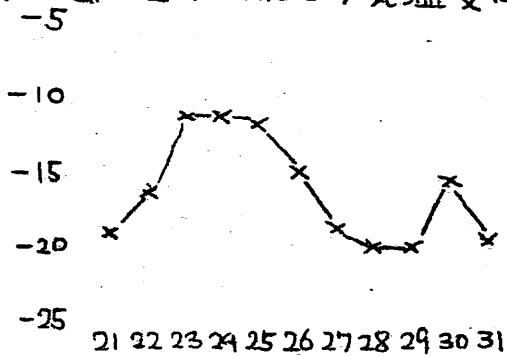


24日
 15時



30日
 15時

《輪島上空 700mb での気温変化》(9:00)



| | |
|-----|--------|
| 21日 | -18.9℃ |
| 22 | -16.5 |
| 23 | -11.1 |
| 24 | -11.3 |
| 25 | -11.7 |
| 26 | -14.9 |
| 27 | -18.3 |
| 28 | -19.9 |
| 29 | -19.9 |
| 30 | -15.1 |
| 31 | -18.9 |

955年度 Pre 山合宿報告書

(簷ヶ岳 冷尾根)

期間 * 昭和55年12月6日～8日 (変更)

コース * 北アルプス後立山連峰

簷ヶ岳 冷尾根～簷ヶ岳北峰～赤岩尾根

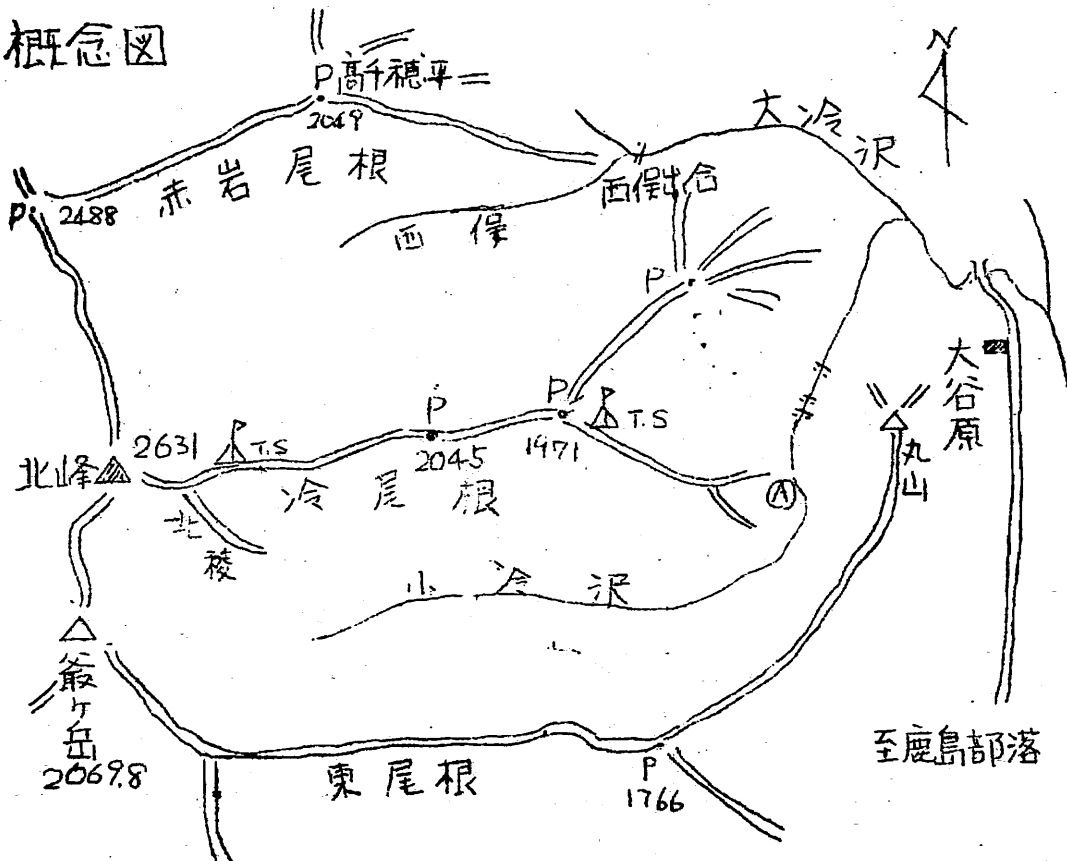
参加者 * C.L川原修(Ⅲ), 山本雅大(Ⅳ), 藤井卓也(Ⅱ),

田辺治(Ⅱ), 保科実(Ⅱ), 岩村考之(Ⅱ), 南圭三(Ⅱ)

丸山岳人(Ⅱ), 田淵潔(Ⅱ), 茂呂晃(Ⅱ), 細川和幸(Ⅰ)

澤田克彦(Ⅰ)

概念図



日程と行動

11/22 雪不足の為, 目的が達せられないと判断し, 中止。

松本 — 大町 — 大谷原 — 鹿島槍スキ場 — 築場 — 松本
5:58 8:00 ⊙ 11:30

12/6 松本 — 大町 — 大谷原 — 大冷沢右岸 — 小冷沢出合 — 取付
5:58 8:00 ⊗ 9:40 ⊗ 11:00

(概念図④地奥) — 冷尾根主稜線1700m付近 — T.S (P1971の手
前の台地) 13:50 ⊙

16:25 ⊙ * T.Sまでヤブコギ, 稜線下部は積雪10~20

m. T.S付近は50~100cm程度。

12/7 T.S — P.1971 — P2045 — T.S (P2631の直下2400^{SNP})
7:00 ⊗ 8:30 ⊗ 10:00 ⊗ 12:30 ⊗

m付近台地) ← ルートワーク, fix 2 pitch

* T.S ~ P2045 付近はハイマツとスズ"竹"がヤブコギ。

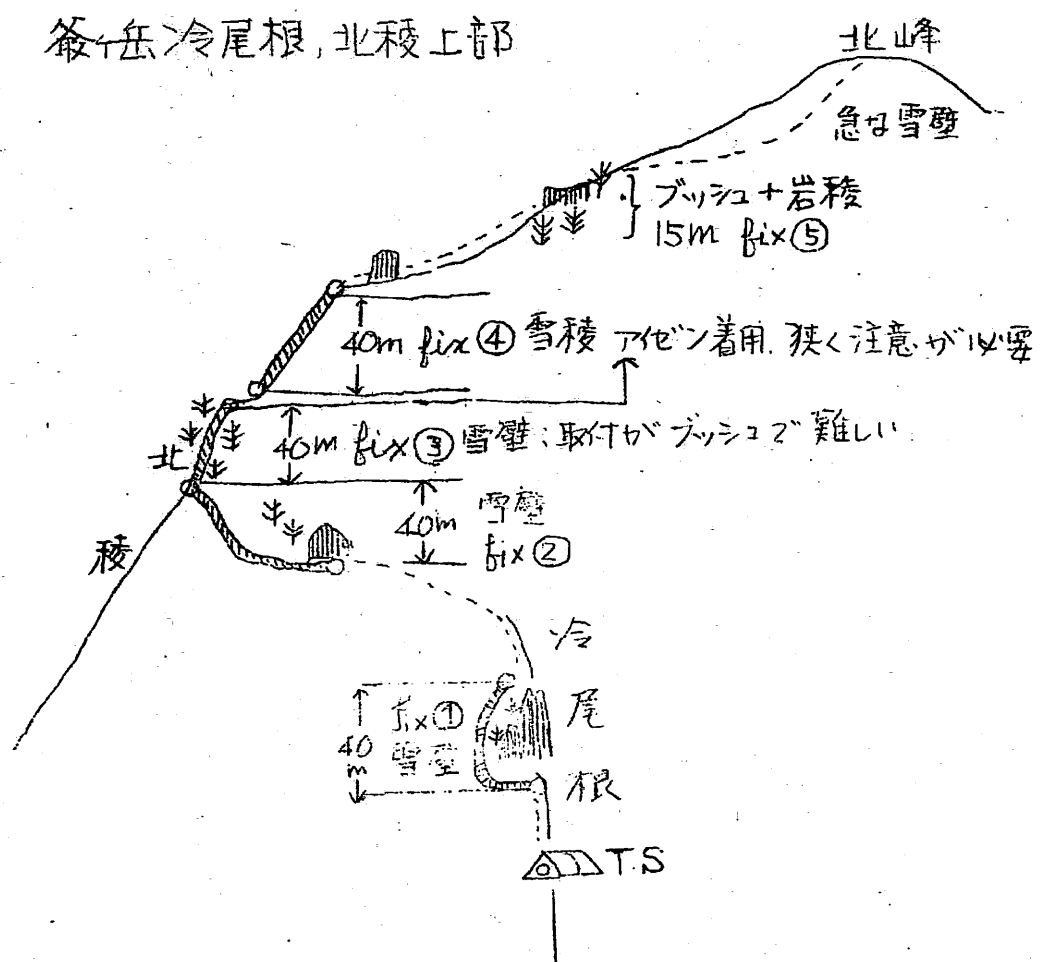
12/8 T.S 先登隊 (ルートワーク fix) 6:40 > fix 2 pitch を通過
⊗ 後登隊 (撤収) 7:20

↳ 後北稜に移る。 — fix 3 pitch で北稜 (2631) 頂上 —
12:30 ⊗ ~ ⊙

— 赤岩尾根を下る (計画では東尾根) — 高平

出合 — 大谷原 — 鹿島部落 — 松本 15:10 ⊙
17:00 18:00 19:45

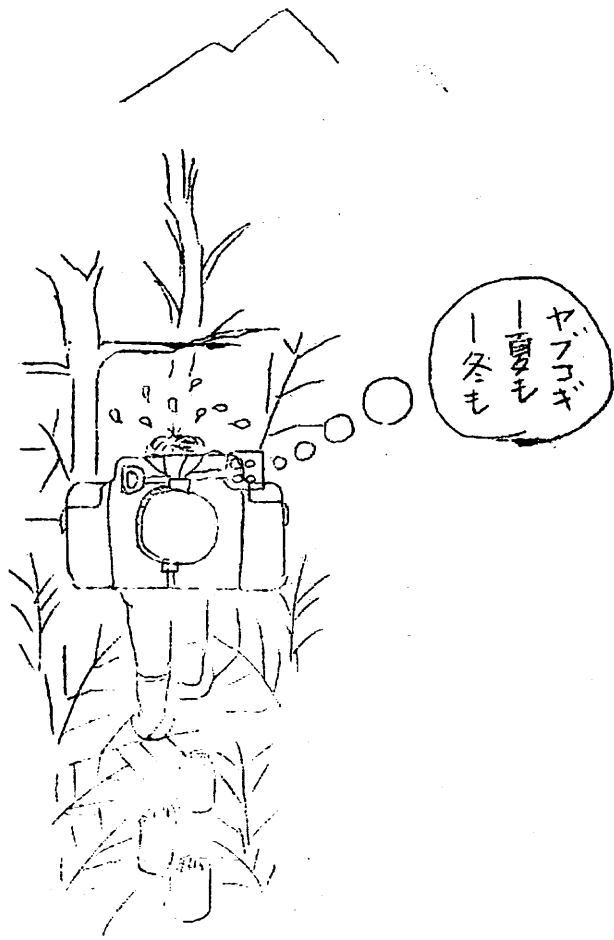
* 積雪1m程度, 上部は急勾 (45°以上) 雪面と成り
いた。



反省感想

雪も適当にあり、訓練に合った。3日目は^{場所}fixが多く、時間がかかり、東尾根を下るには時間が悪かった様だ。小ハネから行けたかもしれない。Essenは良かったが、装備では)コギリを忘れるという失敗があり、誰か、何を持っていくのかなど、装備確認が必要であると思った。

(澤田)



冬山合宿, Pre 冬山合宿報告書
印刷: SAC 伊那中原印刷所
非売品
昭和56年2月18日印刷
Printed in Japan
特殊新鋭刷機使用
印